KITACHU 東日本復興支援プロジェクトつばさ

2011年3月11日に起こった東日本大震災。大津北中学校ではこの震災以降、「KITACHU東日本復興支援プロジェクトつばさ」と銘打ち、生徒会役員を中心にさまざまな活動を行ってきました。

昨年、一昨年は募金活動、避難者への物資の送付、手作りのスクールバッグやシューズ入れを被災地の小学生に寄贈するなど、自分たちにできることを考えて実行しました。そうした活動を通して福島とつながった生徒たちの中では、福島のことについてもっと知りたいという気持ちが高まっていきました。そんなとき、

昨年は震災関連の新聞記事を通して「自分ができること」について考えた

生徒たちは福島で精力的に活動を行っている山口洋さんというミュージシャンの存在を知ります。

山口さんの活動とその思いを知った生徒たちは、大津北中学校の文化祭である「北の翼祭」に山口さんを招くことを決めました。

「北の翼祭」当日、山口さんと現在も福島に在住している森田文彦さんが大津北中学校を訪れました。山口さんは生徒たちの前でライブを行い森田さんは福島の現状について話をしました。

一方、生徒たちは阪神淡路大震災が起こった時に山口さんがソウル・フラワー・ユニオンの中川敬さんと共に作り上げた楽曲「満月の夕」を歌った動画を作成し、上映しました。この動画は現在、動画サイトYouTubeにアップロードされており、今も大津北中学校の生徒たちの歌声をネット上で聞くことができます。

山口さんと大津北中学校の生徒たちのつながりは、「北の翼祭」だけでは終わりませんでした。生徒たちはその後も山口さんとのやりとりを重ね、今年の春には被災地にあるサッカークラブの小中学生とのサッカー交流を計画します。残念ながら、この計画はPM2・5の影響で実現することはかないませんでしたが、今も生徒たちは被災地の人たちのためにできることを考えています。

今年、大津北中学校にひまわりの種とカンバッジ、そして手書きのメッセージ100枚が届きました。送り主は、東京電力福島第一原発から30㎞圏内にある、南相馬市の「自立研修所えんどう豆」の皆さんです。生徒たちは「えんどう豆」から送られてきたひまわりの種を学校で育てることにしました。そして9月、送られてきた種から収穫したひまわりの種と大津町のひまわりの種を混ぜ、南相馬市と相馬市の沿岸部にある小中学校と障害者福祉施設65カ所に手紙を添えて送りました。現在、2カ所から返事が届いています。

1被災地などの様子を収めた写真を展示したパネル展。このほかにも、これまで生徒たちが行ってきた東日本復興支援プロジェクトの概要などが貼り出されており、これまでの経緯が分かりやすくまとめられていた／2生徒たち手作りの募金箱で来場者に募金を呼びかける／3当日は避難者へ送る支援物資の回収も行われ、衣類や暖房器具など、たくさんの物資が集まった

今年の「北の翼祭」では、昨年に続き東日本大震災の被災地や福島の歩みなどを収めた写真のパネル展を開催しました。また、募金活動や避難者への支援物資の受け付けなども行いました。集めた物資はACTくまもと（熊本被災者支援プロジェクト）を通じて熊本に避難してきた皆さんに送ることになっています。

昨年9月、大津北中学校の生徒たちは、福島第一中学校に手紙を送りました。そして今年の10月、その返事が大津北中学校に送られ、新たなつながりが生まれました。今後は、ビデオレターを送るなどの方法で交流していきたいと考えています。

「被災者は深い傷を負っているので、今の生徒会役員の任期が終わるまでや東日本の復興が終わるまでではなく、それからも寄り添っていきたい」と話してくれた生徒会役員の皆さん。きっとこれからもこの思いは受け継がれ続け、大津北中学校の生徒たちと福島とのつながりは続いていくことでしょう。

大津北中学校生徒会役員の皆さん。前列左から竹隈雅人さん（会長）、田上晃太郎さん（副会長）、後列左から武田空さん（書記）、太田輝直さん（会計）、岩田信太郎さん（副会長）、高宮かな美さん（書記）さん

生徒たちが福島県の楢葉中学校に送った手紙とひまわりの種。返事を送ってくれた楢葉中学校のブログには、北中の生徒たちがひまわりの種を送るまでの取り組みの様子が紹介されています